

09入試振り返り

前回前々回に引き続き、09入試の振り返りをお伝えいたします。今回は、難易度の変化から、09入試を振り返ります。

難易度変化

学校の難易度が変化する3つの条件

- ① 受験者数の増加・減少 (≠志願者数)
- ② 合格者数の増加・減少
- ③ 受験者学力層の上昇・下降

実質倍率の上昇・下降

難易度が上昇する条件

- ① 受験者数が増加
- ② 合格者数が減少
- ③ 受験者学力層の上昇

この3条件のうち最低2つの条件が必須

【難易度が変化するときって?】

まず、学校の難易度が変化する際には、左記の3つの条件が挙げられます。「①受験者数の増減、②合格者数の増減、③受験者学力層の上昇・下降」です。

そして、難易度が上昇する際の条件として、「①受験者数が増加、②合格者が減少③受験者の学力層が上昇」が挙げられ、そのうち2つ以上が揃ったときに偏差値が上昇します。

では、それぞれの条件が起こる原因を考えましょう。

受験者数が増加した場合、「人気の上昇・他校の影響・昨年の反動・日程の変更」などが原因として考えられます。

合格者数が減少した場合は、「定員の減少・入試形態の変化・コース改編」などが原因として考えられます。

受験者学力層が上昇した場合は、「大学実績の上昇・最上位クラス(コース)の設定」などが原因として考えられます。

【合格偏差値が上昇・下降した学校】

では、次に合否偏差値が変化した学校を抜粋します。

今までにお伝えした通り、最難関校や大学合格実績の伸びた学校、改革が評価された学校では受験者数が増加し、それに伴って、偏差値が上昇しています。

次年度入試では、反動で偏差値が下降する可能性があります。また、人気校ではさらに上昇する可能性もあり注意が必要です。

合否偏差値が変化した学校(抜粋)

偏差値が上昇

立命館・前期・ADC	啓明学院・B方式
ノートルダム女学院・前期I	三田学園・B日程
明星・2次	須磨学園・第3回
四天王寺・英数II	雲雀丘学園・前期B日程
大阪星光学院	武庫川女子大附属・B方式
西大和学園・3科日程	

次に、合格偏差値が下降した学校です。
受験者数が減少した学校では、それに伴って、偏差値が下降しました。

また、昨年度入試で偏差値が高くなった学校では、反動で偏差値が下降しています。

次年度入試では、反動で受験者数が増加して偏差値が上昇する可能性があります。ただし、同志社・立命館の系列校は募集定員の変更など大きな変化がありますので、ご注意ください。2010年度入試の変化は、詳細が判明する7月にまとめて発信予定です。

合否偏差値が変化した学校(抜粋)

偏差値が下降

同志社	清風・前期・後期
京都女子・B日程	高槻・後期
龍谷大付属平安・A1入試	同志社香里
立命館守山・後期	清風南海・A日程
奈良学園登美ヶ丘・前期	ブルー学院・1次
	甲南・I期a方式

～09入試のまとめ～

① 国公立大学への進学希望者が増加

男子難関校と女子難関校、大学合格実績上昇校が人気でした。特に、男子に国公立大学進学への志向が高く、不況の影響が感じられます。

② 大学附属系の選択肢が増加

ここ数年で大学附属校（関関同立・産近甲龍）が増えました。さらに、立命館コースや関学コースなど、大学連携コースのある学校は女子校に多く（立命館コース：平安女学院・育英西、関学コース：帝塚山学院、など）、女子は特に選択肢が広がっています。

③ 急激な変化は反動も大きい。

受験者数が大きく増減すると、それに伴って、難易度も大きく変化します。そして、それが翌年の受験者数に大きく影響を及ぼします。

今回は、7/13発信予定です。夏休みに学校主催のオープンスクールや学校説明会に参加されるご予定の方も多いかと思えます。今回は、学校主催のイベントに参加される際のポイント等を中心にお伝えいたします。